

**\*あたたかな まなざしを\***  
～子どもの芽、保護者・保育者の目（まなざし）～

皆さま、夏休みはいかがお過ごしでしたか？

健康が支えられて2学期を迎えられたことを神さまに感謝します。新型コロナウイルス感染の影響により、未だ制限やストレスの多い毎日ですが、穏やかに過ごせることを祈ります。

さて、今月は「子どもの芽」、「大人の目（まなざし）」について考えてみましょう。

子どもたちが日々歩む中で、人、自然、物等（環境）に出会います。その中で、動き出していく心の芽は様々あります。知りたい芽、自分で考える芽、自分で行動する芽、感謝する芽、友だちと遊びたい芽・・・。

子どもたちの芽を育てるために、わたしたち周りの大人（保護者・保育者）はどのような見る目（まなざし）が必要なのでしょう。

私たち保育者の目（まなざし）は

子ども自身が、自分をありのままに表現できる、包み込むようなあたたかな目（まなざし）です。穏やかで安心な空間・雰囲気の中で子どもたちは生活できます。そして、自分の感情や先入観で見たり、修飾せずに、ありのまま子どもの姿を見る目（まなざし）です。私たち保育者は、子どもを見る目（まなざし）があたたかで、澄んだものになるように、日々努力していきたいです。

保護者の方々の目（まなざし）は、

「できる」「できない」といった価値基準で子どもをみる目（まなざし）ではなく、子どものありのままを受け止める目（まなざし）でいてあげましょう。

「オギャー」と生まれてきた嬉しい時のことを思い出してください。常にという状況は難しいと思いますが、その時にお子さまに注がれた「まなざし」を忘れずに子どもに接してあげましょう。

子どもたちの周りにはいる大人が、子どもたちの芽を見落とさないように、穏やかであたたかなまなざしを注ぎ、子どもたちの育ちを支えていきましょう。

アウトドア派園長 赤木敏之